

新宿区における歩行者に配慮した舗装

小野浩一*

1. はじめに

新宿区は、新宿区総合計画（平成19年12月策定）で、将来の都市像として「暮らしと賑わいの交流創造都市」を描く中で、「暮らしと賑わいが調和し、住む人、働く人や訪れる人々が心地よく感じることができる、環境に配慮したみどり豊かな快適で潤いのあるまち」の実現を目指しています。代表的な地域は新宿駅周辺であり、現在、まちの活性化と魅力向上を目的に、平成24年11月化から、区道の一部で沿道の商店街がオープンカフェやイベントの開催等が実施され、今までにない道路空間の利活用が実現することになり、歩いて楽しい歩行者空間が一つ実現することになりました（写真-1）。

この報告では、新宿区内の歩行者優先の道路整備の変遷、並びに歩行者系舗装に関する事例について紹介いたします。



写真-1 石畳舗装とオープンカフェ

2. 歩行者優先施策への変遷

昭和48年頃のオイルショックと前後して、我が国の経済発展にともない、急激に到来したモータリゼーションの波は、交通戦争とも呼ばれる事態を引き起こし、道路政策にも大きな影響を及ぼしました。その後、都内では自動車社会から歩行者優先への価値観の転換が図られましたが、既成市街地における道路幅の物理的制約に応じて、歩行者の安全性確保への施策は個別対応で行われています。新宿区では、生活道路が大半の区道で、歩車分離を図ることが可能な路線を選定し、精力的に歩道設置事業が進められました。道路構造・形態の改良等のハード整備のほか、交通安全思想の普及・啓発などのソフト面からも安全・安心の歩行環境確保が進められています。一方、駅周辺の商店街では、景気対策の一環として、昭和50年代後半から賑わい交流空間を創造するために、道路景観の充実や歩行者を優先した石畳やタイル舗装化への意欲が高まり、関係機関との協議を重ね、表層をタイル舗装にして景観向上を図る自主的な整備がされています（写真-2）。

者優先への価値観の転換が図られましたが、既成市街地における道路幅の物理的制約に応じて、歩行者の安全性確保への施策は個別対応で行われています。新宿区では、生活道路が大半の区道で、歩車分離を図ることが可能な路線を選定し、精力的に歩道設置事業が進められました。道路構造・形態の改良等のハード整備のほか、交通安全思想の普及・啓発などのソフト面からも安全・安心の歩行環境確保が進められています。一方、駅周辺の商店街では、景気対策の一環として、昭和50年代後半から賑わい交流空間を創造するために、道路景観の充実や歩行者を優先した石畳やタイル舗装化への意欲が高まり、関係機関との協議を重ね、表層をタイル舗装にして景観向上を図る自主的な整備がされています（写真-2）。

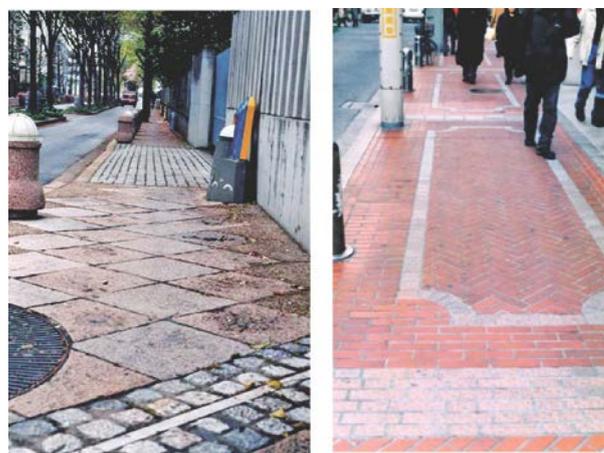


写真-2 歩道整備状況（昭和60年～平成4年頃）

また、河川沿いのみちは、都市型災害と化した河川の水害対策として、主に神田川の河川護岸改修後に整備された道路を自転車歩行者専用道路としました。この道路には、景観に配慮した色彩、デザインのインターロッキングブロック舗装の整備とともに、桜並木を配置したことから、ジョギングロードとして親しまれ、健康志向の高まりとともに地域住民はもとより多くの方々にご利用されるようになりました。新宿区では、これらの道路資源を活用して、地域の特性やまちの資源を繋いでいく、「散策したくなる歩行系幹線道の充実」を進めています（写真-3）。



写真-3 河川沿いの道路（自転車歩行者専用道路）

3. 道路の修景（まちの顔として）

区道の一部では、歩行者優先で整備された石畳舗装やインターロッキングブロック舗装を、地域のまちの顔として、賑わい創出に役立ててきました。例えば、飯田橋駅付近の神楽坂界隈は、かくれんぼ横丁や芸者新道等の私道を石畳舗装で、また、区道をインターロッキングブロック舗装にする等の修景を実施しました。街の風景は新宿区観光協会のHPで紹介されています（写真-4）。

http://www.shinjukuku-kankou.jp/map_movie_index.html



写真-4 神楽坂の石畳舗装

また、新宿駅周辺の商店街では、タイルや石畳舗装によって、まちの賑わいが高められているところ（写真-5）。

このような歩行者に配慮した舗装は、バリアフリーが市民権を得る前から、歩道部の形態をセミフラット方式（歩道面を車道面より高く、かつ縁石の高さより低くする構造）で整備するよう設計されています。また、材料として、レンガ、自然

石、インターロッキングブロック等を利用して、デザインや色彩に工夫を凝らしています。

このようなグレードアップ分の舗装の維持管理については、地元商店街が主体となり、経年劣化に対する保全措置がおよそ30年前から継続して実施されており、区道を沿道の住民と協働で管理していく先進的な取り組みは、現在まで継続されているところです。



写真-5 協働による道路環境維持

4. 歩行者に配慮した舗装施工事例

新宿区では、歩行者が安全に、かつ、安心して通行できるよう「人とくらしの道づくり事業」を進めており、平成8年度から3年間で西落合地区を、平成16年度から3年間で新宿一丁目地区をそれぞれ整備しました。



写真-6 西落合コミュニティゾーン形成事業
平成8年度～平成10年度

西落合地区では、交差点の狭さくとハンプ設置により車両の速度抑制を進めています。路線の歩道もインターロッキングブロックを配置して車道との差別化を図り、通学時等の交通弱者対策に役立てるとともに、住宅地の美観向上にも役立てています。整備後、20年近く経ちますが、住宅地の中でインターロッキングブロック舗装なども良好な状態に保たれています（写真-6）。

次に、新宿一丁目地区は、東京メトロ新宿御苑駅が隣接する業務機能が集中している地区で、車両と歩行者が混在する地域です。事業では、車道部と歩道部との差別化を図るとともに、車道部は、環境に配慮した保水性舗装としています。また、歩道部を広げてインターロッキングブロック舗装とし、色彩の点でも差別化を図り、安全確保に努める工夫を行いました（写真-7）。



写真-7 人とくらしの道づくり事業（新宿一丁目地区）
平成16年度～平成19年度

西新宿一丁目地区は、新宿区で実施している「人とくらしの道づくり事業」の原点といえる「コミュニティ道路」が昭和58年度に整備された地区です。新宿区で唯一車道が蛇行して速度を抑制することを目的とした道路で、新宿西口駅前広場から高層ビル街までの約156mの道路です。

新宿駅の南西に位置する家電量販店が集中する商業地区で、外郭の道路は、広幅員の歩道と車道で構成されている幹線道路です。一方で地区内の区道は、昭和44年の戦災復興土地地区画整理事業で幅員8～10mの道路に整備されています。歩行者の数は、業務施設が集中する西側の高層ビル街への通勤者で混雑しています。また、休日や昼休み等は、地区内の飲食店への利用も多くなり、歩

行者専用道路として、歩行者が安全に利用できるよう、交通規制をしています。また、夜は歓楽街になる等、時間を問わず歩行者交通量が多い地区です。一方、商品の搬出入の貨物車両も多く、荷捌き待ちの車両も多い地区です。



写真-8 昭和58年整備のコミュニティ道路



写真-9 現在のコミュニティ道路

このため、新宿区では、「人とくらしの道づくり事業」を適用することとし、幹線道路から生活道路へ流入する車を抑制し、歩行者等の安全を確保することを目的に、地域住民と一緒に街歩きを行い、歩行者等が安全で快適に利用できる道づくりを検討し、整備を進めるワークショップを、平成21年度からはじめました。

ワークショップでは、住民を対象に、アンケート調査も実施したところ、荷捌き車両等による歩行者の安全性の問題が指摘されたほか、昭和58年度整備のコミュニティ道路のインターロッキングブロックの歩道舗装が、経年劣化によって舗装のガタツキや欠損が多く凸凹があることや、地区

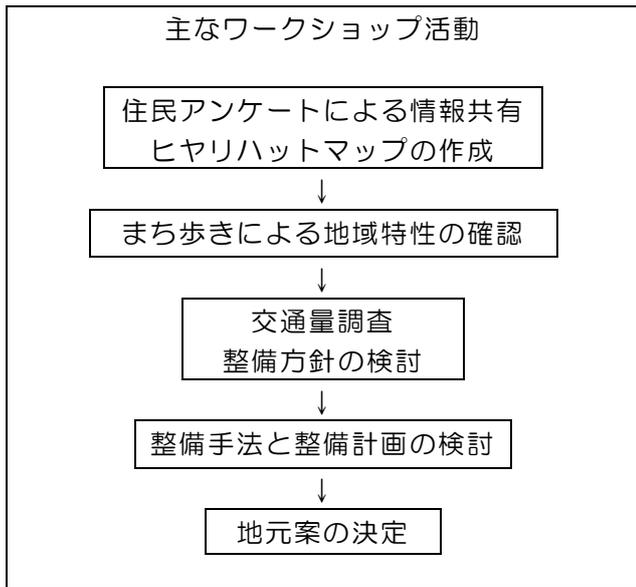


図-1 ワークショップの活動

全体で沿道の建築物への水道・下水道等の供給工事によって路面がつぎはぎ舗装になっていることから、歩きにくいとの指摘がありました(写真-8)。

また、アンケートの際の住民からの意見を参考に、ワークショップ活動において整備方針を検討していく中で、歩車混在の道路を車道と歩道を色彩で区別し、歩行者の安全性を優先的に考えることにしました。その結果、舗装のカラー化によって景観向上を図り、地区全体の舗装を景観性に優れ、舗装性の機能を備えた環境にも優しい半たわみ性舗装を採用することにしました。また、半たわみ性舗装を加工し、石畳風の目地をアクセントにすることで、景観上の配慮も行うことで、まちなみをグレードアップさせ、交差点部は、安全性の向上と注意喚起のために、色やデザインを工夫しています(写真-9, 写真-10)。



写真-10 整備状況(西新宿一丁目地区)

現在、西新宿一丁目地区での改修工事は、平成22年度を皮切りに地区全体を平成26年度までに整備する予定です。

5. 今後の取り組み

最近では自転車利用者の増加により、歩行者の安全性向上への取り組みが新たな段階に入っています。加えて、人口減少や高齢化等の社会的な問題から整備予算の増額の期待は薄く、問題解決には行政のみならず、多くの方々の理解と協力が必要になっています。このため、地域の発展と安全で安心なまちづくりを目指すためには、これまでにない創意工夫が必要です。最後に、関係者の皆さま方のご理解とご協力に感謝申し上げます、報告とさせていただきます。

小野浩一*



新宿区みどり土木部土木管理課
課長補佐
Koichi ONO